

2007年11月13日発行 Vol.53

発行者：会長 鈴木 英夫、編集：NLEG 広報部

日暮れの早さに、秋の深まりを感じる今日このごろです。
 急な冷え込みに、あわてて、冬服を出している方も多いのではないのでしょうか？
 年賀状の販売も始まり、年の瀬が近づいてきたことに、小さな焦りを感じつつ、もう少し、芸術の秋を満喫したい・・・まずは、アジャンでの松谷画伯個展の報告の続きから・・・この個展の準備は昨年事故から完全復活したマリーの初仕事ともなったようです。マリーからのレポートの抄訳をお届けします。



マリーと『イチ』

アジャン市長と文化センターの主催で行われた9月28日（金）のオープニングは、松谷氏自身によるパフォーマンスで始まった。多くの招待客が厳粛な表情で居並ぶ第2展示室内には入りきれない人も多く、第1展示室には、実況中継を映しだすスクリーンがしつらえられていた。松谷氏は、皆の前でTシャツから黒い服に着替え、人々は皆いったい何がおこるのかと沈黙のうちに見守っていた。

松谷夫人のケイトが天井につるされたバーから白い大きな布を引き降ろし、床に置かれた長方形の金属の入れ物に入った墨に40cmほどひたし、また吊り上げた。布には

不規則な帯状に墨がつき、そこから墨のしずくが布に跡を残してたれた。

人々がこれは一体なんだろう、どうなるのだろうと不思議そうに見つめる中、松谷氏は壺に入れた墨に筆をひたし、一気に、また予期しなかった動きで布の中央に横一本の線を引いた。沈黙・・・そして彼は言った「これで終わり！」

そして、彼は説明した。日本語の『一』（イチ）と言う文字で、それは彼のアジャンでの初めての個展、また、その初日、すべての始まりを意味し、展覧会の開催期間中ずっと展示され続ける事。また、西洋数字では『1』と縦に書くが、日本語では水平に『一』と書き、横の繋がりを表わすと・・・人々は納得し、大拍手を送った。

引き続き大展示室で、アジャン市のヴェレ市長のスピーチがあり、西宮とアジャンのこれまでの友好交流に触れ、現代美術は万国共通の芸術であり、アジャンの今年の芸術シーズンを松谷氏の個展でオープンできることに大きな意味を感じると述べた。次に松谷氏が自分のこれまでの人生と芸術家としての歩みを、流暢なフランス語で話し、彼の誠実な人柄と芸術への情熱に皆が感銘を受けた。

次に、交流市民の会からのお祝いの花のアレンジと、私と夫からの花束とを私の手から贈呈し、また、彼との出会いの経緯などをアドリブでスピーチした。

(訳者注：マリーさんが数年前西宮に遊びに来た時に訪ねた西宮市大谷美術館で、たまたま打ち合わせにいらしていた松谷氏と出会う。その後マリーがパリに松谷氏を訪ねるなど、フランス帰国後に交流を深めた。紹介したのは当会幹事の森田正樹氏だが、偶然にも森田氏は現在、大谷美術館の館長をしておられる。)

西宮の山田市長からのメッセージも届くはずで、今、空を飛んでいると説明しておいた。その後のパーティーではアジャンの日本レストラン『大阪』に頼んだ、寿司、さしみなどが振舞われた。
(報告：マリー・フィトン、翻訳：佐藤祥子)

☞上記、訳者注の中に登場の森田正樹氏が NLEG のサイト掲示板に以下の投稿をされていますので、松谷氏のニュースの補足として引用させていただきます。

奥さんの個展のために帰国中の松谷さんに会いました。アジャンでの個展のスナップ写真を預かりました。

1 マリーからの提案 「来年の1月にでもアジャンと西宮の絵画作品の交流展をしたい」

2009.4 に向けて協議することとしました。

2 松谷氏はまた1月に帰国するので市民の会のメンバーと会う機会も持ちたいとのことでした。

アジャンの個展は好評で、アルカッションやツールズの画廊からも人が来て、もしかするとパリに作品を持って帰らずにすむかもしれないとのことでした。奥さんのバンホーテンさんとも先週北口でばったり出会いましたが、小柄な方で彫刻家です。来月大阪でも個展をされるそうです。

11月3日から市民ギャラリーの美術展にも松谷さんの作品が展示されるはずです (森田正樹氏・記)

今後も、ますます充実した交流ができそうです。楽しみです。

絵画、美術の話題をもうひとつ：当会第2代会長で、西宮美術協会会員の武居精氏の個展のお知らせです。ヨーロッパの歴史と風土が絵から滲み出てくるような、重厚な作風にいつも感動を頂いています。

第5回 武居 精 個展

2007.12/11(火)～19(水)

10:00AM～6:00PM(最終日5:00PM)

創元会 入選

西宮、神戸、尼崎、池田、川西各市展 入選

西宮美術協会会員・ART'81 協会会員

GALLERY 龍

西宮市羽衣町 5-28

会場 TEL 0798-33-0702

問い合わせ 0798-23-6785

マクドナルドOVO沿いに
西へ100メートル



行ってきました！ 山陽小野田市へのスケッチ・観光・グルメの旅

10月20日(土)～21日(日)

山陽小野田市にお住まいの会員・白井佳子さん(ご主人様は山陽小野田市長でいらっしゃいます)と絵画部の越智強さんの、入念な打ち合わせのもと、15名の会員が参加され、すばらしい旅となりました。古くからの絵画部会員である杉崎嘉子さんから、くわしい旅行記が届きました。(写真は越智強さん御提供)



10月20日(土) 前日の激しい雨に埃が洗い流され爽やかな朝、新神戸8時11分発のRail Starで新山口へ。10時着。見慣れた帽子姿の白井さんと御主人、他のメンバーと改札口で合流。簡単な自己紹介の後、レンタルのマイクロバスで秋芳洞、秋芳台へ。運転手は停年まで市の公用車を運転していた人。秋晴れの中、コスモス、キリン草、薄、柿、川を左手に見ながら到着。整備された土産物通りを抜け杉木立、エメラルドグリーンの川沿いに鍾乳洞の入口へ。

(写真上：刈屋漁港の船溜) 明かりに自然の造形が浮かびあがっている。岩窟王、黄金柱、南瓜岩、百枚田 etc.の名がついている。観賞しながら登る事1時間程で出口に。全員揃ったところでバスで秋芳台へ。薄、キリン草の広大な台地、少し冷たい風の中ビールと松茸入りの空弁(白井氏の友人の会社のファーストクラス用)を頂く。食後集合時間を決めてスケッチしない人はドライブ。上手な運転に身を任せてカルスト台地を間近に鑑賞。

再びバスで下関の火の山へ。途中、高杉晋作の墓のある庵の側で晋作餅を買う。(美味)268mの山頂から関門海峡、玄海灘、周防灘、巖流島、門司港、八幡の高炉の煙突、行き交う船、関門橋がすぐ目の下に見える。ここは本州最西端！

下って平家滅亡の一因となった潮流を「みもすも川公園」から見る。流れが速く激しく岩壁に打ち寄せている。源平の戦場壇ノ浦！安徳天皇を抱いて入水した二位の尼の舞台！すぐ側に関門トンネルの歩道入口があるが渡る時間は無い。

夕暮の海峡に沿って老舗料亭・帆万里へ。海辺で海に沈みゆく夕日、夕焼空を眺める。日没と共に食卓につき、改めて自己紹介。乾杯の後、次々と海の幸が運ばれてくる。山口産の白ワインがよく合う。歓談しながらの豪華な食事を済ませ今晚の宿(江汐いこいの村)へ。温泉に入り闇に浮かぶ半月と星空を見て就寝。

10月21日(日)深い闇の中到着したので昨夜は気づかなかったが、翌朝窓の外は森！ここは県営の自然公園の中のホテル。鳥の声を聞きながら松茸の香のする赤松林、鴨の泳ぐ湖、バラ園を散策後朝食。

今日は刈屋漁港、浜五挺唐樋でスケッチ。どこからでも見える竜王山が136mで最高峰という山陽小野田市は95%が干拓(開作)地。江戸時代自然石をくり抜いて造った水門がこの浜五挺で開作の始まり。

ランチは迎賓館の太平洋セメント山手倶楽部で。ブロックを使った大正初期の建物、

内部はアジャンで行った市長室に似ている。

午後刈屋漁港で買物をして市営のきららガラス館で作品を鑑賞し最後のスケッチ場所、最南端の本山岬へ。侵食された崖、洞窟、くぐり岩などの奇岩、沖に船が見える。自然の織り成す絶景、打ち寄せる波を聞きながら皆熱心にスケッチ。帰りの新幹線の時間が迫ってきた。心残りながら拾った貝殻、ウニを手にバスへ。2日の旅の仕上げの集合写真を急いで撮って出発。海になだれこみそうな程のキリン草、海辺をジョギングする人、海峡を舞う鳥などをみながらひた走る。

新山口駅で、白井夫妻、運転手さんに別れを告げ、白井氏に頂いた美味の特産の蒲鉾を抱えて部長の解散宣言でホームへ。そして帰路につく。

2日間とは思えない程の充実した楽しい旅でした。世話役と白井さんとの細かな打ち合わせのおかげです。特に前もってスケジュール表、パンフレットを送ってくださった白井さん、忙しい公務の中、気配りあるお世話をしてくださった白井氏に感謝です！



忘年会のお知らせ

今年も年の暮れを前に、皆さんで顔を合わせ、楽しく親睦・交流いたしましょう！
幹事の皆さまのあたたかいご配慮で、第1部で佐藤がささやかながらピアノを演奏させて頂くことになりました。(但し、あまり期待はなさらないで下さ~い!(^^))

記

日 時：12月9日(日) 16:00~ ピアノミニコンサート

16:30~18:30 懇親忘年会

場 所：フレンテ5F リハーサル室

会 費：¥2500 (持ち寄り歓迎...材料費等精算いたします)

参加申し込み(締切11月30日!): E-mailで info@nleg.net

Faxで 0798-32-8673 (秘書・国際課内 NLEG 事務局)

(Tel:0798-35-3468...できる限り電話での出欠お知らせはご遠慮下さい)

編集後記：久しぶりに編集のお当番が回ってきた佐藤ですが、新人の方々のオリジナリティー溢れるそれぞれに美しい紙面が続いた後、いささかレトロな文字中心の会報...歳を感じますっ！

事務局：〒662-0911 西宮市池田町 11 - 1 フレンテ西宮 4F 秘書・国際課内

TEL : 0798-35-3468 FAX : 098-32-8673 <http://nleg.net> e-mail : info@nleg.net